

みやぎNPO夢ファンド(A)組織開発(人材育成を含む)支援プログラム
平成20年度助成事業 最終報告書

書式4

21年 4月 29日

団体名	発達支援ひろがりネット		
事業名	実践社会塾プログラム開発と担い手の育成		
連絡担当者お名前(ふりがな)	すずき 鈴木	ともこ 朋子	
第1回 平成20年4月14日 「発達障害に関する基礎知識」 東北福祉大学ステーションキャンパス 講師 阿部芳久東北福祉大学教授			
第2回 平成20年6月22日(日) 「発達障害のある人の就労について①」 青年文化センター、研修室1 講師 ぽこあぽこ 代表 藤原 靖 <u>写真1</u>			
第3回 平成20年7月5日(土) 「発達障害のある人の就労について②」 青年文化センター研修室3 講師 養護学校岩沼高等学園支援部長 茂木 純子先生 <u>写真2</u>			
第4回 平成20年9月12日(土) 「発達障害のある人の就労について③~ジョブコーチ の必要性と現状」 青年文化センター研修室3 講師 ここねっと発達支援センター長 黒沢哲 <u>写真3</u>			

第5回 平成20年9月27日(土) 12:00~18:00

JC-NETジョブコーチセミナーIN福島

地域生活支援センター「ふっとわーく」

主催 社会福祉法人ほっと福祉記念会

講師 JC-NET 代表 小川 浩氏

内容 キーノートスピーチ(概論)

ジョブコーチとは/アセスメントとジョブマッチング/フェイディング
とフォローアップ

第6回 2008年11月30日 「セミナー報告会」

写真4

東北福祉大学ステーションキャンパス

「セミナーで分かったこと、考えたこと、」

第7回 平成21年2月14日(土)

「就労に使えるサポートブック」

写真5

青年文化センター研修室

講師 宮城県発達支援センター「えくぼ」 小野浩子氏

第8回 平成21年3月14日/15日

「ジョブコーチネットワーク会議」

写真6

大妻女子大学 多摩キャンパス

様々な分科会・基礎講座などが同時刻別会場であった為
手分けして参加していたが、2日目になるとメンバーの
それぞれのニーズが見えてきたためか、自分で選りながらの参加となった。
参加したもの(詳細は別紙資料)

- ・ 「就労支援の流れを読む」キーノートスピーチ
- ・ 就労移行支援事業の明日を考える
- ・ 変わり始めた教育現場の就労支援
- ・ 企業の創意工夫と支援機関の役割
- ・ 地域の就労支援ネットワーク
- ・ 現場からの実践報告Ⅰ
- ・ 現場からの実践報告Ⅱ
- ・ 基礎から学ぶ就労以降支援事業
- ・ 入門講座Ⅰ・Ⅱ
- ・ シンポジウム「現場の視点で考える～この5年」

第9回 平成21年4月26日(日)(別紙資料2)

「報告会」

福祉プラザ 大広間

助成金を使って行った研修事業について、ご記入ください。(続き)

当初の成果目標はどの程度達成できましたか。当初目標と比較して記入してください。

●申請書に記載した成果目標

- 1) ジョイフルジョブスタッフとして、自分の子供が支援を受けながら、研修に参加できることで、効率よく研修でき、運営委員以外の人材育成もできる。
- 2) ジョイフルジョブスタッフ研修にネットワーク団体内の人材を使うことにより、お互いのリソースの共有ができる。組織力がアップする。
- 3) ジョイフルジョブを担当する運営委員が、研修をうけ、新しい知識や情報を得ることができることで、運営委員の能力を強化できる。そこから、県や市へよりよい支援を提案してゆく組織的な体力がつく。
- 4) 実践社会塾のプログラム開発は、会員のニーズに答える内容となっていて、会員が参加しやすい。このスタッフになることによって（参加者の保護者は全員スタッフとなる）自動的に研修を受けることとなり、人材の養成と確保へとつなげることができる。
- 5) 昨年情報交換会に来ていただいた NPO 法人ジョブコーチネットワークは、第1号第2号の職場適応援助者研修を厚生労働省の指定を受けて実施している団体である。その研修を受けることで、ジョイフルジョブスタッフの実力を強化することができる。そのことにより、ジョイフルジョブスタッフを養成することができる。

●申請書に記載した成果目標（続き）

●目標の達成度・団体に与えた効果

- 1) 就労支援についての基礎知識・全国での支援事業の現状・団体内での就労支援の情報などを、研修という形で効率的に得ることができた。運営委員のほか、実践社会塾の講師のかた、保護者のスタッフも学ぶことができ、県内・仙台市内での就労支援の現状をもっと把握しなければという問題意識が生まれた。
- 2) 今回はネットワーク2団体からの講師で、参考となる本の紹介などもあり、リソースの共有が図られた。今後輪番制で、構成団体の講師を招いての勉強会も計画したいというアイデアが生まれた。
- 3) 特に3月のジョブコーチネットワーク会議に参加したことにより、全国の障害者就労支援の実践報告や企業の創意工夫、制度の活用の話など、運営委員が勉強してきたことで、宮城県や仙台市の障害者就労支援・ジョブコーチの現状把握と、発達障害のある人たちへの就労支援のあり方などの問題意識が、共有された。今後、調査・勉強会などを考えていく。組織内でどのように位置付けするかは、まだ未定である。が、すでに仙台市などの就労支援センターへこのグループが調査に行っている。この活動から、県・市への提案につなげてゆく基礎体力がつき始めている。
- 4) 参加者の保護者や塾生が事務局に来てボランティアとして実務に参加、大変助かった。（残念ながら引越しなどで現在はいない、募集中）また今後実践社会塾の運営は、実行委員会で行われることとなった。この研修を受けたスタッフが実行委員として参加している。
- 5) 今後の実践社会塾は今回参加したスタッフも含めたメンバーで運営してゆくこととなった。（実践社会塾実行委員会）実践社会塾を担うスタッフが、この助成で発達障害者の就労支援の基礎的な研修や、全国規模での障害者就労支援の実際を学べたことが、実行委員会結成につながった。

●目標の達成度・団体に与えた効果（続き）

- 達成できない部分があった場合には、
考えられる原因や、解決に向けて必要なこととお書きください。

・団体の事務局の人手不足は解決していない。今回育てたボランティアがいなくなった直接的な原因は、不可抗力の引越しだったりするのだが、結局は事務局が常時開局できる体制にないことである。また各団体の人手不足で、ボランティアを出せないことにある。解決に向けては、団体目的を再度確認した上での組織体制の見直しである。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか
また、その際に必要なものは何ですか

- ・「実践社会塾」は、プログラム開発の結果を受けて今回スタッフ研修した人たち（団塊世代活動センター・参加保護者）が中心となり実行委員会を組織して、継続してゆくことが決まりました。1年間の結果を受け、プログラムをより充実したものに展開してゆきます。また、東北福祉大学の学生ボランティアが参加して、分析を行います。
- ・今回スタッフ研修で勉強した運営委員・保護者で、宮城県・仙台市の就労支援の現状を調査して行きます。仙台市では独自の就労支援システムがあるようなので、発達障害のある人が、資源として活用できる施策・事業所などを重点的に調べ、アールとの連携などどのようになっているのか、勉強して行きます。現状を把握できたところで、発達障害のある人のための支援のあり方を考え、発信してゆくこととなります。宮城県では、発達障害者支援センター連絡協議会・広域特別支援連携協議会合同会議や障害者施策推進委員会などで、この結果を踏まえて発言してゆくこととなります。
- ・発達障害のある人の一般就労は、企業内でジョブコーチの視点で仕事を切り出し、作り出すことで、かなり可能になることを今回の研修で学んできました。もちろんジョブコーチの育成も大切ですが、同時に企業が障害のある人たちを理解して職場を作っていただくことも大切なことと実感しました。ネットワークとしては、発達障害のある人の就労の為に創意工夫を支援事業所のジョブコーチ、発達支援センターなどからの情報で企業の中に作り上げた事例等を、県内企業の皆さんに新聞のような形で発信してゆく計画があります。
- ・一番達成できなかったこととして、スタッフ研修の保護者を事務局にボランティアを巻き込むことでした。何名か巻き込みはしたのですが、転勤ということで結果的に、また振り出しに戻ってしまったのです。結果的には今回スタッフ研修で勉強した運営委員が、ひろがりネットの活動の意義を感じてくれて、何とか時間をつなぎ合わせて活動をしているのが現状です。しかし、今後活動を継続して行くのであれば、目的とそれにあつた活動を支える組織作りをしてゆく必要があります。障害のある子どもを抱えた保護者が主体となって活動するには、目的の共有と活動の絞込み、効率的な組織運営が必要となります。そのための勉強と会議を、半年間の期間の中で講師を招いて行うこととなりました。これを実現するには、やはり資金です。ひろがりネットの責任・意義を大切にゆきたいと考え、課題に立ち向かおうとする運営委員会のメンバー（人材）は、今回の研修であらわれてきています。研修では、外部から講師を招こうと考えていますので、資金が必要です。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	350,000	350,000	
参加費	78,000	88,800	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会参加費 6,500 (6/22) 6,500 (7/5) 3,500 (9/13) 6,300 (2/14) ・Jc-net福島セミナー13000 (@1000×13人) 3,000 (返金) ・Jc-net会議 50,000 (@5000×10人)
団体負担金	12,000	69,288	
合計	440,000	508,088	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
講師謝金	20,000	15,000	
講師交通費	2,000	2,000	
研修会費用	360,000	439,210	<ul style="list-style-type: none"> ・20年9月Jc-net福島セミナー研修交通費 46,490 ・20年9月Jc-net福島セミナー研修費 (@3000×13) 39,000 ・21年3月Jc-net会議交通費9名分 162,000 ・21年3月Jc-net会議交通費 1,320 ・21年3月Jc-net会議参加費・宿泊(10名分) 190,400
書籍代	10,000	8,100	Jc-net会議資料・参考書代など
会場費	21,000	17,450	施設使用料・付帯設備費など
通信費	10,000	7,400	送料・切手代・はがき代ほか
事務費	15,000	15,796	コピー・印刷・紙代ほか
雑費	2,000	3,132	振込み手数料・お茶代
合計	440,000	508,088	